

2006年(平成18年)11月23日(木曜日)



●イラクの水環境は、今どうなっているか？

サダム・フセインに有罪判決が下され、また米国ではブッシュ政権が中間選挙で敗北し、国際的にもイラク問題の見直しが検討されている。米兵の死傷数のみが報告され、水関連の情報は聞こえてこない。イラクの水環境は、今どうなっているのか焦点を当ててみる。

2003年3月にイラクに侵攻した米軍は圧倒的な軍事力を背景に首都バグダットを陥落、同年9月に勝利宣言を行い、暫定統治機構を樹立した。米国政府は直ちにイラク復興資金として45億ドル(約5兆4千億円)を投入すると発表、

日本政府も15億米ドル(1800億円)の無償援助を約束した。上下水道の復興は最重要課題の一つであった。

2006年1月の米国イラク特別査察チームの発表によると「136の上下水道復興プロジェクトの内、完成しているのは49であり、60%以上のプロジェクトは中止または、保留されている」と、他の復興プロジェクトに比べ水関係の復興の低さが目立っている。因みに電力関係の復興は425プロジェクト中、約300カ所は復興済みである。

米軍侵攻前には、イラク国内で140の浄水場が稼働し、一日300万立方メートルの飲料水を供給していた。またバグダット周辺では、3カ所の下水処理場で380万人分の汚水を処理していたが、現在処理が出来ないため四分の一の汚水はチグリ

ス川にダンピングされている。維持管理費用の少なさも問題である。例えば1990年から1996年まで、上下水道維持管理のために、約120億ドル使われていたが、現在わずか10億円程度しか使われていない。

安全でない飲料水供給や衛生状態が悪いために、全国で水由来の病気、特にコレラが発生し、多くの子供の命が奪われている。

ユニセフは2003年より小型水処理装置の稼働の為、発電機や塩素ガスボンベ、硫酸バンド等の救援活動や水の浄化剤35万人分を提供し続けているが正に「焼け石に水」状態であり、本格的な処理場の復興が望まれている。復興が進まない原因は、治安の悪さであり、また復興資金の大半がセキュリティ関係に費やされている。(Y)